平成２９年度第３回宮崎県社会教育委員会議
【議事録】

平成２９年１２月１９日（火）
午後２時から午後４時３０分まで
県庁４号館２階教育共用会議室

※　事務局より、前回の振り返り・演習・本日の内容説明
※　委員（３名）より、事例発表

協　議

柱１　事例発表の中に、人材育成（人づくり）の視点から、どのような「学び」の要素が含まれているか。
　また、地域づくりに「学び」の視点を新たに入れたり、より深めたりするには、どのような工夫が考えられるか。

柱２　事例発表の課題を解決するためには、どのような工夫が考えられるか。
○　組織（プラットフォーム）の視点から
○　行事の企画・運営（多様な主体との連携を含む）の視点から

議　長　　会議資料の６ページをもとに、話合いを進めていく。協議事項の柱１「事例発表の中に、人材育成（人づくり）の視点から、どのような『学び』の要素が含まれているか。また、地域づくりに『学び』の視点を新たに入れたり、より深めたりするには、どのような工夫が考えられるか。」である。今日は、結論を出すわけではない。
　３名から事例、問題点も含めて発表いただいた。この人づくりの視点から、どのような要素が含まれているか。そして、柱２は、課題を解決するには、プラットフォームの視点から組織はどうあるべきかもあわせて協議していきたい。柱２でも構わない。感想でもよいが、意見を伺いたい。

委　員　　人づくりの視点からということで、鞍岡地域づくり協議会の様々な活動や組織が立ち上がっている。この最大の特徴は、自然学校がやっている放課後子供教室は、地域の子供を地域で育てようという、社会教育を地域の中で毎日やる仕組みをつくったことである。その運営を事務局が毎日行っている。
　「四億年の大地生産農家の会」は、米農家が、子供たちに田んぼを残すという目的がある。やはり子供たちのためである。「祇園祭盛り上げ隊」も子供たちのために祭りで屋台をやって盛り上げている。「祇園神社総代会」は、伝承である臼太鼓踊りを祭りの前に、放課後子供教室に来て教えてくれている。伝統文化を守っていこうと取り組んでいる。祭りで、保育所や小・中学校も子供神輿（みこし）を一緒に活動して盛り上げる。「神楽保存会」も、夜、子供神楽の練習で関わっている。駐在所は、朝の登校の見守りをしている。私たちは、放課後の見守りをしている。これは全て、鞍岡の子供たちのた

めにという視点が入っている。
　次世代を担う人材育成を子供たちから行っていく。それに集った大人たちも学べる。例えば、神楽保存会の大人たちは、自分たちを磨くことが中心だったが、子供たちに教える場が与えられるので、子供に教えることを学ぶ。棒術もそうである。臼太鼓は一回消滅した。３０番ほどあった踊りが、伝承していた方が亡くなってしまうなどにより、今、４番ぐらいしか舞えない。せめて、これを残そうということで、高齢者の方にも協力いただいている。これが、教育プラットフォームということになるのかなと思う。

議　長　　鞍岡地区公民館長との関係はどうか。

委　員　　それぞれをまとめて動いてくれている。

議　長　　例えば、環境保全等、地域密着でないといけないところの公民館の活動状況はどうか。

委　員　　空き家が増えている。空き家でも使えるものと、危険家屋に近い状態で放置されているものがある。使えるものに関しては、退去された方に「なるべく貸して欲しい」という声かけを行っている。また、危険家屋については、放置しておくと危険である。住民に連絡を取って、危険ではない状態にして木を植えるなど、環境保全をしたり、草刈りをしたりしている。

議　長　　質問など、他にないか。

委　員　　３名の方の話を聞いて、大変素晴らしい取組があって頭が下がる思いでいる。事務局から３つの視点ということだったので、３つの地区と３つの視点で９つのマスをつくってメモを取っていた。大変勉強になった。その中で課題となったときに、参加者が固定しているとか、高齢化だということが深刻に捉えられていた。
　１つ疑問なのは昔はどうであったのか。今は、共稼ぎで働いているので、当然、保護者は家にいないのではないかという見方もする。活動するのは、高齢者と子供たちが中心になる。ただ、ボランティアをやってもいいという人が結構いる。働きながらでも自分の余力の中で時間と労力が出せるということは、とても有り難いことで、そういう方を発掘していくべきではないのか。
　子供たちへの視点を定めることはいいことである。ただ、あまり子供たち、子供たちと言っていると「上げ膳、下げ膳」になり、大事にするだけで育ちがないような気がする。
　地域の行事については、全て残すのではなく、無くなっていく覚悟も、新しいものをつくっていく努力も必要である。これらの行事に若い人を取り込むことは大事だと思う。
　自分の経験では、自治会や班がある中で、地区の祭りで焼きそばを作る係や、子ども会で神輿を見守りながらお金を集めて回るとか、そんな活動が精一杯なのだが、そのような活動がなくなっては地域が廃れるので誰かがつなぐ必要がある。ただ、若い層の人は、働いている。その中でも活動できる人たちをいかに発掘していくかが大事になって

くると思う。

委　員　　協議の視点の１つに、「人々の暮らしと地域の発展に貢献するための学び」とある。各種団体が、目的に応じた学びの機会を子供たちに提供していくかである。

今、子供の貧困が社会の課題の１つになっている。子供の貧困の連鎖を断ち切らないといけない。私が関わっているＮＰＯ法人「家庭・青少年教育ネットワーク」では、一人親家庭、生活保護世帯の子供たちを対象に無料学習塾「レインボースクール」を行っている。学校や民生児童委員協議会の協力、まちづくり推進委員会の福祉部会の支援も得て活動している。支援員は大学や退職校長会の人材を生かして学びの機会の提供をしている。こういうことも、ここの「学び」に該当することになるのか。こういう学びの提供も今後必要になるのではないか。

また、発達障がいの子供たちを対象にした自立するためのキャンプを宮崎県キャンプ協会と協働して実施している。学びの内容及び対象が、従来と違ってきているというところを意識した学びの機会の提供も大事かと思う。

これからは、それぞれの主体が独自性を活かしながら、各種主体と協働した取組が求められていると思う。

議　長　　社会は日々動いており、それぞれの家庭にはいろいろな課題がある。このような中で社会教育をどう進めるかについては、自分たちが自立して、これからの社会をどうしていくかの課題を共有していくことが大事である。そのためには、地域の課題は何かを学習して、現状把握をした上で、それでは何が出来るかというところから人づくりが出てくる。

いろんな課題が出てきているが、その課題を解決するにはどのような手立てが必要なのか。日々生活ある中で、みんなが参加をして、みんなが情報を共有していくことが大切であるし、行政の役割も大きい。例えば、我が町の進む方向をみんなが共有して、それに向かって学習をして解決する運動を展開することも大事であるし、その中で人をどう育てるか。

御意見を伺いたい。

委　員　　若者の県外流出という大きな課題がある。就職に際して、社会を担う若者が県外の企業に流出する。せっかく未来を担う子供を育て上げたとしても、社会を担っていく若者が県外に流出してしまう。これは歯止めをかけていかないと、社会教育の地域基盤をいい方向にもっていったとしても、中間層となる者が出て行ってしまう。どうすればいいのか。若者が流出しないように企業誘致など、そういったことを考えていかないと、せっかくつくった流れが一端途絶えて、最終的にはそこに残った高齢者が、リーダーシップを発揮して地域を担っていくような感じになっている。一番大事な中間層である働き盛りの人たちが宮崎に残っていない。そこをどうすればいいかという視点でも議論を進めた方がいいのではと思った。

委　員　　先日、開催された第２回生涯学習実践研究交流会の事例発表を聞いて思ったことがあ

る。それは、大人が子供を育てていくときに、いかに自分の生まれ育ったところがいいところかを伝え、自分のふるさとが大好きだという子供に育てていくことが大事だと思った。

人々の暮らしと地域の発展に貢献するためにはとあるが、子供を真ん中においた世代間の交流を大事にした方向で地域づくりを行う。大人自身もふるさとが大好きで、ここで子育てができることが幸せというのが基本にあると感じた。

委　員　九州ブロック社会教育研究大会宮崎大会の事例発表の中で、放課後子供教室の２０年目に、今度は子供が、そこの先生になっている時が楽しみという内容とつながった。県外に流出しても、戻ってきて、宮崎の地域のために貢献するとなれば、１回出て行ってもいいのではと感じた。そのためには、地域のよさを伝えていくことは大事だと思った。

議　長　時間になった。地域で人材をどのように育成していくか等については、次回にお願いしたい。副議長にまとめをお願いする。

副議長　今回の冒頭に、この会で私たちが向かう先について確認した。何のためにこの会をやっているのか、私たちは何をねらいとしてやっているのかを確認したところである。

テーマが「人々の暮らしと地域の発展に貢献する宮崎の社会教育」ということで、人々の暮らしと地域の発展に貢献する、そのためにはどうすればいいかということで、宮崎の学びの在り方はどうあったらよいのか、社会教育、体制はどうあったらいいのか、人材育成はどうあったらいいのか、これらを協議しながら最終的には、提言としてまとめて県の方向性を形づくるというところにある。

そこで、どうやっていきましょうかと言ったときに、前回からの部分で有るべき論だけ論じたって仕方がない。実際、宮崎の状況というのはどうなっているのか、そこには問題があるのか、うまく機能している部分もある。そういったものを見つめ直しながらいきましょうということで３名の発表があった。３名の発表は、人口がそれぞれ少・中・多の地域といったところで、それぞれ抱える問題も違うであろうが、ある部分共通する大事にしていかないといけない部分も発表の中から見えてくるだろうと聞いていた。

ここからは、聞いた中でこれって大事なんだ、共通なんだと思った部分を感想を交えて話したい。

行政主導で立ち上げて、やらされ感があるということは、最終的にうまく機能しないと思った。行政主導から住民主体にもっていくことは大事な要素としてあると感じた。そこが、例えば、行政というよりも自分たちのニーズの中から出てきて、住民が活躍されているという部分が、うまくいっている背景にこれがあるかもしれないと思った。行政が立ち上げてもいいが、その立ち上げた目標自体が自分たちの目標になっていかないと、与えられた目標のままだったらうまく動かない。自分たちの目標として落とされて、これが大事だと納得する。だったら自分たちは何をなすべきか、何を果たせるのか、こういったふうにありたいとみんながそういう思いになったときに、自分たちのチームは何がやれるのか、組織は何がやれるのか、そして、それをやることは自分たちにとってメリットを感じないとなかなか動きにくい。自分たちとして、どんなメリットがあるの

か、そして、これをやらないことが、逆に自分たちにとってはどういう弊害になっていくのかといったことも実感しながらやっていく、そういういったところが明確になっていくといいと思う。それが、明確になっているのが、鞍岡の子供たちのためにといったところで、みなさんの目的が明確になると動きやすいし、何をしたらいいか明確になるし、それが実感として得られるとうまく機能していく、といったところにあるなと思った。

どうやったら人が社会教育をやって動くのか、社会教育をうまくやっていけるのか、この辺にポイントがあるような感じがした。

キーワードとして「子供」が出た。先ほど協議の中で、「子供に依存し、自分たちがやらされ感をもつようになってはいけない。」といったところも、自分たちにとってやることは必要なんだと思わないと悪循環をきたしてしまう。ここをうまく回すことも必要なんだろうと思う。

また、人材育成といったところで、いろんなことをやっても、それを担う人材をいかに流出を押さえて確保していくかといったところの問題が出た。これも社会教育をやる上で根底をなす大事なところだと思う。

ただその部分の１つの大事なこととして、宮崎の子供を大事にしながら育てていき、「ふるさとっていいな。」という思いで、一回出ても帰ってくればよし。出て行った人が、「ここでまたやりたいな」とあるきっかけに戻ってくる道筋をつくってあげる。そのためには幼いころから「ふるさとっていいな。」という思いが育まれているということも関係するのだと思っている。そこのところで先ほどの子供がキーワードといったところとつながるのではないか。というふうに感じたところである。

地域の課題は何か、現状は何か、何ができるのかといった手立てのところに、そういったところを押させていきながら検討していくことになるのかなといったところである。

議　長　　それでは、進行を事務局に返す。